

平成27年第14回花巻市教育委員会議（臨時会）議事録

1. 開催日時

開会 平成27年12月4日（金） 午後2時00分

閉会 平成27年12月4日（金） 午後4時11分

2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室

3. 出席委員（5名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 伊藤 明子

委員 佐藤 勝（教育長）

4. 説明のため出席した職員

教育部長 市村 律

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 菅野 広紀

こども課長 小田中 清子

文化財課長 千葉 達哉

5. 書記

教育企画課 課長補佐 鈴木和志 主任主査兼係長 幅下崇則

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 こんにちは。只今から、平成27年第14回花巻市教育委員会議臨時会を開会いたします。会議の日時、平成27年12月4日、午後2時、会議の場所、石鳥谷総合支所3-2、3-3会議室。

日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることにご異議ございませんか。異議なしと認め、本日一日と決定いたします。日程第2、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いいたします。岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 それでは報告案件を1点。花巻市教育振興基本計画の策定状況について、皆様に事前にお配りさせていただきましたが、素案ということで案をまとめましたのでこれについて色々ご意見をいただければと思います。よろしくをお願いいたします。

私の方からは前回の総合教育会議以降に大きく変更した点についてご説明をさせていた

だきたいと思います。

資料の2ページ目になりますけれども基本計画の基本目標の下段部分でございます。「すべての市民が学びあい、たくましく生き抜く強さと、思いやりの心を育む“人づくり”をめざして」ということで、前回「変化に対応し」という言葉を使っておりましたが、全ての市民と一緒に学んでいきたいと思いますというようなことを入れるということで、このように変更させていただいております。次に、3政策別に目指す「市の姿」に、これによってどういう姿、環境を作ろうとしているのかという辺りを注釈的に全ての項目に入れさせていただいたということでございます。

次に4ページの第3章でございますが、本市教育の特長の前段部分に総合教育会議の中で市長から、郷学があったと、最初が揆奮場ではなかったでしょうという指摘もいただいたところでございまして、その部分を前段に入れさせていただいているということでございます。それから、本市教育の現状と課題のところでは下から2段目の「このことから」の部分でございますけれども、特にも地域コミュニティの拠り所といいますか、どこを核にして再生を図っていくのかという部分を具体的に記載するというので、清掃活動ですとか世代間交流などの互助共助の活動を付け足しさせていただいたところでございます。それ以降、大きく変更したところはないので、8ページまで飛んでいただければと思います。太字になっていますが、「教職員定数を巡る動静」。この部分を国等の教育改革の動向の中段以降に一文入れさせていただいたところでございます。

次に、第4章以降の変更点についてご説明をさせていただきます。10ページをご覧ください。全ての内容に関係してきますけれども、以前は成果指標が入っておりませんでしたので全てにおいて成果指標を入れました。「子育て環境の充実」の成果指標につきましては、まちづくり市民アンケートを基にしまして、「子育てしやすいまちとを感じる市民の割合」を成果指標に掲載することで、現状値は平成27年度の市民アンケートの結果をもって現状値とさせていただいたところでございます。次に11ページをご覧ください。事業の内容につきましては、前回は大括りの事業名しか載せておりませんでしたけれども具体的な事業名を全て載せさせていただいております。例えば、地域子育て支援センター事業については、子育て相談、親子の交流促進、子育てサークル等の支援等ということで掲載をさせていただいております。(3) 就学前教育の充実に飛びます。この部分ですが課題の書き方を整理させていただきまして、課題の①に就学前教育プログラムに基づく取り組みの部分をまとめて記載させていただいた部分が前回と異なっております。取り組みの一番最初に就学前教育プログラムの推進ということで一文足してございますので、ご確認をお願いしたいと思います。以下、事業等について同じように記載しております。

次に14ページ、「学校教育の充実」の部分でございます。基本方針の説明文の中に今回の計画の核となるような言葉といたしまして、「家庭や地域と連携した学校づくり」ですとか「チーム学校」または「経営マネジメント」というような記載を追加しております。3段目、いじめへの対応の部分の後半になりますけれども「自己肯定感」「自己有用感」に関する取り組みを行うということで「命の大切さ」を伝える教育活動について追記させていただいております。成果指標ですが、これにつきましては岩手県の学習定着度状況調査を基に4つ掲げさせていただきまして、いずれも小学校、中学校別に数値を設定させていただ

いております。現状値につきましては平成26年度調査の結果を現状値ということで記載させていただいたところでございます。次、15ページをご覧くださいと思います。花巻市学力向上アクションプランの推進ということで取り組みの1項目目の最後の段落「さらに」の部分です。これについては前回も記載させていただいている部分ですが、まちづくりの総合計画等も全てですけれども、これまで英語の学習については実は「豊かな人間性の育成」の部分にのみ記載してきたところでございますが、教科化ということも見据えまして「学力の向上」に英語の部分の初めて記載させていただいているところがございますので、ご確認をお願いしたいと思います。次に16ページの(3)豊かな人間性の育成の課題①でございます。こちらに自己肯定感に関する調査結果を記載いたしまして、これを上げていく取り組みが必要であるということに記載させていただいております。これに対応する形といたしまして取り組みの1番上に児童・生徒指導の充実ということで一文追加させていただいたところでございます。次に17ページ、18ページにつきましては事業の追加のみで大きな変更点はございませんでしたので割愛させていただきます。次に20ページの最後の◆になります。学校給食の安全と安定の確保の下段でございます。前回までハード部分の記載しかございませんでしたけれども、食育の充実ということでソフト部分についての取り組みを新たに追加で書かせていただいております。次に22ページでございます。これは教育委員会議の際にそれぞれの役割が明確に分かるものが何かあった方がいいのではないかとということをお話をいただきまして、簡単な図ではございますけれどもそれぞれ地域、保育園、小学校、中学校、家庭、行政それぞれが何をしていくのかということが図式的に表したものを追加をさせていただいております。

次に23ページをご覧ください。「生涯学習の推進」でございます。こちらについては成果指標をまちづくり市民アンケートから、学習テーマをもって日ごろ学習に取り組んでいる市民の割合ということで記載をさせていただいております。内容については大きく変動はございません。事業の内容が追加になっているというものでございます。25ページをご覧くださいと思います。25ページの一番最後の四角ですけれども、花巻市の国際姉妹都市・友好都市、国内の友好都市についてどういう所と交流しているのか分かるように追加で記載させていただきました。

次に26ページ、4スポーツの振興でございます。この部分については成果指標をまちづくり市民アンケートから、日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合ということで記載させていただきました。内容について大きな変化はございません。

次に28ページをご覧くださいと思います。5芸術文化の振興の成果指標をまちづくり市民アンケートから記載しました。項目としては3つ掲げております。現状値は平成27年度の調査結果によるものでございます。内容については大きく変更した点はございません。

次に32ページ、33ページについては第5章、第6章ということで追加の部分でございます。第5章については市民とともに歩む教育行政改革への取り組みということで教育委員会の機能強化、事務局・機関等の機能強化、それから、開かれた教育行政の推進の3つの項目で記載をさせていただいております。事務局・機関等の機能強化の部分については特に教育施設の維持管理の部分と生涯学習部門との情報共有の強化の部分をとくだし

で記載させていただいております。

最後に第6章の計画の進行管理についてでございますが、基本計画の進行管理部分と実施計画の策定と進行管理の2項目で構成させていただきました。2実施計画の策定と進行管理の後段の部分のサイズが大きくなってしまっておりますけれども後で文字サイズを訂正させていただきたいと思っております。以上、前回の総合教育会議の後に大きく変更した点を中心にご説明をさせていただきました。よろしくお願いたします。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。事前に資料が配られたわけですが、委員さん方から特に、ここに重点的に時間をかけて協議したいところはございますか。特になければ順を追って見ていきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。それでは、前回の総合教育会議以降の変更点ということでお話しがありました。章ごとに見ていきます。

第1章計画の策定にあたって。ここは何かございますか。無いということでもよろしいですか。

第2章の基本目標のところ。「変化に対応して」というところを取ったと。如何ですか。3ページの方でそれぞれの囲んだ部分の下に説明を加えたということですが目を通していただいて何かございますでしょうか。役重委員。

○役重眞喜子委員 子育て環境の充実で、表現の問題だと思うのですがけれども「健やかな成長を育む」というのは、こういう言い方があるのでしょうか。「成長を育む」という、ちょっと「頭痛が痛い」感じはするんですけど。

○岩間裕子教育企画課長 この部分につきましては、まちづくり総合計画の文言をそのままとっているので変更はしていません。

○役重眞喜子委員 この四角の中はみんなその総合計画ですか。

○岩間裕子教育企画課長 そうですね。

○役重眞喜子委員 誰も違和感がないのであれば別に。

○照井善耕委員長 この後また市民にお伺いということになるでしょうから、今のところを留意して何かあったときに全体の計画とのかかわりで変えた方がいいとなれば。

○伊藤明子委員 「参酌し」というのはこの言葉しかないんですもんね。何だかみんな聞いたことのない言葉だなとか思ったりして。これしかないんだろうなと思いつつながら、仕方ないのかなと。何となくみんなが使わない言葉で分かりにくいのかなということ。

○照井善耕委員長 用語についてはそうですね。改めてどういう意味かなと調べなくていいような言葉を積極的に使っていくとしていかないと何回か調べているうちに意欲が失

せてしまって、その後は目も通したくないとかなりかねないので。ちょっと引かかる言葉があれば全体として検討した方がいいと思います。

3 ページで何かないでしょうか。それでは次にいきます。第3章、9 ページまで。

○伊藤明子委員 揆奮場とか郷学の中に「学問と武術にとどまらず、産業や芸術の分野でも多くの優れた人材を輩出しました」というところで。幼稚園の近くに鶴陰の碑というがあるので、説明の中にこういう風なところにこういう人達いたということの説明もすればより分かりやすいのかなと思ったりしたのですが、それはいらぬことなのかな。読んだときにこういう人達がいましたよという鶴陰の碑などを教えてくださればいいのかと思ったりしたのですが。そうすると分かりやすいかなと思ったりして。

○佐藤勝教育長 （鶴陰碑は）江戸の後半期に花巻城に関連した文学、武術、文芸で功績のあった人を顕彰したということで、どちらかというとならば花巻侍を取り上げています。花巻侍というのは現在の花巻市の中の旧花巻市を中心とした部分なのですが、私がちょっと意識したのは、同じような郷学という場合には、例えば東和の土沢の中にも商家があつてそこで塾を開いたとか、八重畑、関口でも庶民を対象にした講座、それから大迫ですとお寺を中心にした寺子屋とか全部ひっくるめて郷学という言葉にしたところでした。集約してもいいんですけどもほとんど城下なんですね。そこら辺、一般庶民からの教育システムという雰囲気だと郷学だけでいいのかなと思っただけ、そこの見せ方は。

○伊藤明子委員 そういう東和の方とかいろいろな方がいらっしやったことはそれぞれお教えしてもいいですよ。東和の人だつて知らないかもしれないし、大迫の人だつてもう忘れてるかもしれないから書いていけばわかるかもしれないですよ。

○佐藤勝教育長 地域地域に学びの場があつて、そういうのを指導をした小さな塾みたいなのがいっぱいあつたという捉え方と最高位のお侍さんとかのレベルで出すかどっちがいいのかなと思つたのですが。

○照井善耕委員長 そういう意味では郷学が入つたのはいいよね。どこも我が事として捉えやすい。

○佐藤勝教育長 産業芸術と対比すると、それぞれの地区において、例えば笹間では宮大工がいっぱいいたとか、大迫ではアイヌの平沢屏山がいたとか、どこにも立派な人はいるんですよ。まあイントロ部分なんですけどね。

○照井善耕委員長 色んな地域で色んな人がその時その時に活躍してきているというね。その風土が今に伝わってきていると言つたらいいのかな。片方をあげるとまた別な方もあげなければいけない。全体としてという捉え方をしていけばいいのかな。他にございませぬでしょうか。

私、6ページの(4)生涯学習の4行上のところ、「親子式学校給食センター形式」というのがちょっと分からなかったのですが。親子で給食を食べるのかなとか。何かすっきりする表現があるんじゃないかと思って。

○市村律教育部長 学校併設型とか。

○岩間裕子教育企画課長 親子式は一般的に給食の分類のときに使われているのですが、分かりやすく何か※とか説明文を入れますか。

○照井善耕委員長 ※とかでちょっとやってみてください。

○中村弘樹委員 5ページの「小1プロブレム」という言葉の理解というのは皆できているのでしょうか。何となく分かるのですが。何だということ。

○佐藤勝教育長 これも※をつけた方がいいかもしれないね。中1ギャップとは同じような感覚で今だいぶ使われてはいるのですが、一般の人が知っているかといえば。そうすると就学前教育プログラムも同じことですね。脚注をつけた方がいいのかもしれませんが。

○伊藤明子委員 スムースとかいうのは一般的に使われているけれどもプロブレムなどというの一般的にはあまり使われていないので日本語に直してやれるのでしょうか。簡単に小一なんとかって。

○岩間裕子教育企画課長 そうするとプロブレムの方がやはり一般的に使われているので、逆に、「なにになにといわれる」「このような」とか何か説明をつけるか脚注をつけるか。

○役重眞喜子委員 一行でも前に入れればと思うのですが。あまり注だけでも読みづらいですし。

生涯学習とかスポーツにかかわると思うのですが、今までの生涯学習のフレームだと確かにこうなんですけど、もう少し花巻市がやろうとしている地域づくりとか福祉とか高齢化の問題とかですよね。そういう地域づくり全体との連携というか、生涯学習がせっかく市長部局に行った意味は何だったかなというのを思い出すと、ちょっと教育委員会的な部分は入っているんですけど、さらに地域づくりと連携していくということがどのように課題化されるのかなというのが気になりました。もの足りなさがありました。

○佐藤勝教育長 生涯学習の振興計画を生涯学習部局で作っていてこの前ようやく原稿が回ってきたのですが、今お話があったような、コミュニティ、いわゆる地域で学びあう、作り上げるといったような本来の地域からボトムアップする手法が課題だと思います。

○役重眞喜子委員 せっかく地区公民館のよき伝統が花巻にも石鳥谷にもあるんですけど。

○佐藤勝教育長 そこが一番の大きい課題だと思う。つまり、まなび生涯学習会館と27のコミュニティとのネットワークとかシステムづくり、そこがこれからなのかなと思いませんね。

○役重眞喜子委員 生涯学習は地域づくりそのものなので。

○岩間裕子教育企画課長 今現状で取り組んでいるもの、次年度にむけて新たに取組もうとしているものの中に今おっしゃる部分がどうしてもなくて計画にそこを書くということについては躊躇する部分が出て、なかなか5年間という計画の中でそこまで踏み込めるかといった。

○役重眞喜子委員 あまり具体的な生々しい話じゃなくて。確かに地域づくり課も色々かわってきますしコミュニティ会議とかいろいろやっていますが、そこまでの話じゃなくて。コミュニティ会議でもいいし自治公民館でもいいですけど地域で取り組んでいる中から地域の子供たちは地域で見ているとか地域の世代間交流とかそういうような部分が生涯学習の一番の根っこなんです。という気がするんですけどね。コミュニティ会議に出さなくてもいいと思うんですけど、せめて地域の生涯学習活動を積極的に支援していくスタンスを書いていいのかなと思いました。

○佐藤勝教育長 7ページの6行目あたりの「地域づくり」や「次世代の人材育成」の前に何か言葉を入れれば、コミュニティとか入れてもいいんですけどね。

○役重眞喜子委員 この「システムを構築し」というのは何ですか。

○佐藤勝教育長 結局その辺りがもうひとつ明確ではない。

○照井善耕委員長 この7ページの5行目から「意識の醸成とあわせ、生涯学習活動や仕事を通じて得た知識や技術を個人のみのもものとせず「地域づくり」や「次世代の人材育成」につなげていくためのシステムを構築し、運用していくことが必要です。」とありますが、後になります。事業があまり見当たらないんですよ。趣味の世界で終わりにしないで学習していることが生かされる場、学習でつなぐものがあればいいんじゃないかな。今本当に趣味の世界だから地元からいなくなるんだよね。いいんだけどもったいない。

今やっていることを否定しないで、やっていることの中から地域づくりとか地域の身近な活動の中に役をもってもらって生かすとか発表の場を設けるとか何かそういう形で少しずつ地域に目が向いてくれば。割と絵画とか作品とかで頑張っている人たちが地域の文化祭に出てきているよね。

○佐藤勝教育長 高齢化、地域の芸術団体の先細り、後継者世代がいないと。そういう実

態は総合計画にも載っていましたがね。

○役重眞喜子委員 地域で学ぶというのも自分の趣味だけじゃなくて少子高齢化の時代に向けて地域の福祉とか例えば、健康まつりとか講習会みたいなことを若い人たちがどんどん積極的に学んだりワークショップをやったり色んな活動が出てきているわけですよね。特に27というだけの認識だけじゃなくてそういうところをやっぱり応援していきますと。学校にもそれは関係されるということもあるんでしょうし、そういうところが広がりというのがあるのかなというのが趣旨でした。

○佐藤勝教育長 ここは生涯学習と持ち寄ってもう少し具体的な踏み込んだ話をさせていただいて。

○照井善耕委員長 むしろここが1行でも後ろの方で具体的なものが2つ3つ並ぶくらいならいいだろうけど。

○伊藤明子委員 ちょっとかけ離れている部分が見えると拝読させていただいたところでございますが、一般市民というところら辺に焦点をあててお話をしているのか。私は若いお母さん達を含めているのかなと思っていたのですけれども、若いお父さん、お母さん達が読むには説明が不足しているんじゃないかなと拝読しまして。あまり小難しいとさっき教育委員長さんがおっしゃったように嫌になるかもしれないということで、若い方とのギャップがちょっとかなと思っていました。

○役重眞喜子委員 何か普及版みたいなものを作るんですよね。チラシとか。

○岩間裕子教育企画課長 広報には載せたいと思っています。

○役重眞喜子委員 これそのものをみんなが読むというのも。読めば一番いいのですが、わかりやすいチラシ等できれば若い人も読めるのかなと。

○照井善耕委員長 それは私も感じましたね。普及版があって、ちょっと確かめるときにこれを見る。普及版になったときにどんな言葉であらわすかとかね。今のところは内容的にはイメージできたと思いますのでそれを具体的にどうするか確認して。他にないですか。

(5)のスポーツの2段落目の「ほとんど運動をしていない20歳以上の市民の割合が39.6パーセントと低いことから」。ほとんど運動していない市民の割合が低いと。

○役重眞喜子委員 低くないですね。

○岩間裕子教育企画課長 ほとんど運動していない人もいるということで、逆ですね。4割の人が運動をしていないということになります。

○役重眞喜子委員 順番が。「20歳以上の市民のうちほとんど運動していない」としないと。

○照井善耕委員長 ちょっと理屈っぽくなるのですが、生涯学習の最後の段落の「青少年期における家庭教育」というのは。

○岩間裕子教育企画課長 この計画上の青少年期については就学後から20歳までを指すということで、生涯学習の分野のところの青少年期の健全育成に連動する部分です。

○照井善耕委員長 家庭教育でいいのかな。むしろ幼少期の家庭教育というのは状況的な安定を大前提として、基本的な生活習慣とか対人関係を身につけていくというのを家庭でもっていいと思うけれども、ひげの生えてきたあたりの子供の基本的な生活習慣を家庭教育でというのは。確かに地域と連携してとはいうけど、むしろ地域とか色々な価値の中で強化していく部分じゃないかなと。家庭の方が「ええっ」って言わなければいいなと。

○役重眞喜子委員 生涯学習という部門の中で家庭教育が大事だよということが言いたいんですね。青少年期って入れなくてもいいような気はしますけれどもね。

○照井善耕委員長 青少年期という言い方がね。青少年期を入れておくか、とるか。保留。

最近の子供で、教室でも昔と違って障がいを持っている人が増えていると言っているけど、基本的に情緒を安定させる機能が働いていないんじゃないかなという気がするんだよね。そこを置いたままに家庭で躰をやらなくてはどう。何か一番根本のところを疎かにされたまま、ああすればいいんじゃないかということがいっぱい飛び交って、ますますおかしくなっていくんじゃないかという感じがする。学校でも「学校に入る前にちゃんとやってください」「やってもらわねば困る」とかそういうものの言い方ではなくて、例えば小学校で受け入れたときに、情緒の不安定な背景は何だろうかと、この子を落ち着かせてやれるようにするにはこうしましょうとか、受け止め方を何か発想をそういう風にしていかないと荷物ばかりが多くなっていくような気がして。基本的な生活習慣という言葉や聞くとそういう風に思ってしまうんですね。ニコニコチャレンジがいいんじゃないかと何回もいうけど、ニコニコしてチャレンジしないとしかめっ面でチャレンジしたんじゃない子供も大人もつぶれてしまうんじゃないか。次にいきます。

8ページはよろしいですか。この「教職員定数を巡る動静など」のここのゴシックはこのままでいいんですって。

○岩間裕子教育企画課長 すみません。後から追加したときに分かるように文字を変えたのを直し忘れました。

○照井善耕委員長 よろしいでしょうか。それでは第4章にいきます。いよいよ具体的な

取り組み、成果指標ですが。何かございますでしょうか。

○役重眞喜子委員 全体にかかわるところで成果指標なんですけれども、この中に入れる入れない話ではないかもしれませんが。現状値があって目標値がある。この目標値が適正なんだかどうかというのがここから判断できないですよ。要は、19年度に計画を作って8年経っているの、前回の計画においてどうだったのか。どの数字からスタートして現状はここまで伸びているのか落ちてきているのか。伸びてきているのだったら今までの取り組みは功を奏したんだなということで、そういう取り組みでしょうし、全然伸びていないというのであれば何か別の取り組みとなるでしょうし。事務的な作業ではそれを行ったと思うので、計画の中でも本来はそういった検証の部分も踏まえてこういう設定をしまったというのがあるべきじゃないかなと。もしこの中に入れられないのであれば補助的な説明資料ということでもいいのかもしれないですけど、そのあたりはどうなんでしょうね。

いろんな町の計画をみて、ちゃんと書き込んでいるところもあるので、指標についてはそれが気になったところでした。

○岩間裕子教育企画課長 成果指標を設定した理由というか、何故そういう成果指標に。

○役重眞喜子委員 要は、例えば55.7%が63%まで持っていくというときに前回は80%で現状が55%に落ちているということであればこの目標値は。多分そうじゃなくてこれまでの実績を踏まえてこういう風に作っていると思うので、18年に合併してから9年経っているという段階の中で今まで伸びてきているのか落ちてきているのか、だからどうなのかその経過が見えない。

○佐藤勝教育長 55.7%以前の数字はあるの。

○岩間裕子教育企画課長 あります。指標はずっと同じ指標でやってきているので。上がってはいるんですけども、それを本編に入れるか、逆に資料編に前期の振り返りが資料編には載せなければいけないのでその部分で書き込むかどうか。

○役重眞喜子委員 計画というのは積み重ねなのでそういうことだと思うんですよ。

○照井善耕委員長 1つ前のを入れるだけでもいづらか。

○役重眞喜子委員 前回の時も成果指標って入っていましたか。

○岩間裕子教育企画課長 はい。

○役重眞喜子委員 それを引き続き使うのもあるし、全然別にしていてもあるというこ

とですか。

○岩間裕子教育企画課長 子育ての部分は前回なかった分野なので新しくなります。

○役重眞喜子委員 なければどこかで成果指標の設定の考え方、例えばこれまでの何年間かの伸びとか減りとかを見て、既にここに掲げた施策を行った場合の効果をプラスして設定しましたという考え方は欲しいような気がする。

○岩間裕子教育企画課長 考え方をまとめて示す資料というのは第4章の出だしの部分に「その成果を検証するための指標は以下のとおり」と書いていますが、こういう考え方で次のような指標を設定しますという説明みたいなものはまとめてであれば入れることは可能かと思います。

○市村律教育部長 個別のところに指標設定の考え方を入れられるのであればわかりやすいと思うけど。シートを作るときの資料設定の考え方を、それを隠すよりは出した方がいい。

○岩間裕子教育企画課長 さらに下に囲って考え方を載せる。

○照井善耕教育委員長 ちなみに、この55.7、61.5、63.0というのはなにか。例えば、花巻は子育てをしやすいとは言えないという課題があるときに、何か明確なものがあるって財政的な考え方とかで年次計画でやっていくと29年度は何パーセントというのが出しやすいと思うんだけど、要素がいっぱいあって、いろんな要因が考えられて、これは市民の意識とあわせて少しずつ目標に向かっていくしかないという中身であれば多分あまり大きな変化はなく進められていく。あまり考えなかったことだけど役重さんの話を聞いてなるほどなと思いました。

○役重眞喜子委員 そういうところでひっかかっちゃうとせつかくいいことが書いてあってもあまりなくなっちゃうから、さらっとでも鉛筆なめなめじゃないよということをやんと書いた方がいいのかなと思います。

○佐藤勝教育長 目標値の設定の仕方というのは何か。

○市村教育部長 現状値を見ながら。それからアンケートの取り方は理由まで書かせると市民の方に負担をかけるということで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」とか簡単にチェックをつけれる形で千本ぐらいの標本という形でアンケートを取っているのとは自由記述のところそれぞれ書いたところは拾うのですが、チェックした部分をぶつかるかというとは別ですので、割と感覚的に3パーセントぐらいは誤差とみられています。

○役重眞喜子委員 指標なのでアンケートはそれでいいと思います。

○市村律教育部長 ただ、考え方の方で経緯が。ここが伸びてきているからとか。

○役重眞喜子委員 どこに課題があるかは、それは行政が探る行政の仕事なので。

○市村律教育部長 分析してその原因を探るのは各セクションで、やっぱりこういう施策が不足しているからじゃないかというところを分析しながら次年度に向けて。

○照井善耕委員長 まず、子育て環境の充実の部分。最初この資料を見たときに何か紛らわしいなと思った。基本方針の枠を目立つ枠にするのはどうかな。

基本方針があって成果指標があって事業があって、ずっと見ていくと何についてやっているんだろうとなる。(基本方針は)太字のゴシックで目立っていいんだけど更に枠まで大きくするか、下の箱を点線にするか、見た感じここがメインというのが分かりやすくお願いしたいと思いました。子育て環境の充実はよろしいですか。次、学校教育の充実。

○役重眞喜子委員 学力と体力のところは非常に課題を網羅的に捉えていると思うのですが、豊かな人間性の育成の課題が5つあって、「自己肯定感」と「ボランティア」と「東日本大震災」と「キャリア教育」と「いじめ」かというところどうなんだろうというのがちょっと。

学校教育における豊かな人間性の育成が、特殊な課題ということで抜き出したのであればそれはあれなんでしょうけど、長い期間使う計画ということ考えた時に、今、子供たちを取り巻く環境が、家庭教育とかITとか色んな面にさらされている中で、思いやりとかゆっくり情緒を安定して学校が楽しいと思ってくれるということとか自然とか地域とか幅広く対応させて取り組んでいくとか基本的な挨拶とか、そういうところの方がなんとなく現場的にはパッと浮かぶところなんですけれども。課題ってこの5つでいいのかなと思いました。あとに出てくる施策の柱と対応しているというのは分かりますが、とくだしの課題という意味なのですかね。

○佐藤勝教育長 学校で取り組んでいるのは一番最初に道徳的実践力。道徳が教科化したわけなのですが、いわゆる人間性とか人格とか抽象的だけどオーソドックスなところはそこから入ってくるということで。

○役重眞喜子委員 学校活動は、子供たちが朝来て授業やって給食やって部活やってという活動の中で豊かな心の育成というところ具体的に。あらゆる場面でももちろんそうだと思うんですけど。

○佐藤勝教育長 道徳性とか楽しさを体感できるような習慣づくりとか特別活動とか。

○役重眞喜子委員 クラス経営とか。何というのかな、ここに書いている5つだけやっていけば豊かな心が育つのかなと。

○照井善耕委員長 難しいんだけどね。自己肯定感に関する調査でも「自分にはよいところがある」と。よいところがあるという前に自分には何もなくても自分が存在することがいいのだと、そこがないと。例えば、赤ん坊なんかそこにいるだけで周りがにこにこするんだよね。

昔、西南中学校にいたときの女の先生は、当時特学がなくて障がいを持った子を話し合いで自分の学級に入れるとかあったんですね。まさにそこに思いやりが育っているんですよ。その子がいることで〇〇ちゃんにもわかるような言葉を心がけるとか、掃除の仕方を工夫するとか、学級全体の雰囲気としていい学級経営だったなと思うんですよ。そうした時にその子の自己肯定感とは何かなと思うと、まずその人がそこにいることに心地よさを感じるとかということが自己肯定感の一番のもとになるんじゃないかな。それがあつたうえで、さらにこういうことをやれば自分もこうできるよとか、さらに一歩進もうというときにこれをやるとか色々出てきそうな感じですね。

自己肯定感の育成を考えたときにそういうことを考えながらいかないと、よかれと思って自己肯定感をもたせようと思ってやったら挫折体験になって、またこれもできなくなったということになりかねない。

○役重眞喜子委員 今回の委員長さんの話を踏まえると、一番の課題は先生が忙しくしすぎないでゆとりをもってひとりひとりの子供に向き合うということが一番の現場の課題かなと。

○照井善耕委員長 この前、手のかかる子供が次から次からいるんだけど対応しきれないと。そういう中でおそらく担任の先生は大変だと思う。そうすると教育委員会がそこをどうしたらいいか。保護者の協力を得ようとか地域の協力を得ようとかそういう話になる。お金があれば人の配置も可能だし。総合教育会議ができたことでそこを市長さんとざっくばらんに話せるようになったとか。

○市村律教育部長 若葉小で家庭教育セミナーがあったんですけど、各家庭で10分間だけでも子供と向き合って話をしてくださいと。子供にとって一番つらいのは聞いたふりをされること。聞いていて無視される方がまだいいんだそうです。聞いてくれているのかなと思っていると実は生返事でうんうんと返事して実は聞いていなかったというのが一番つらい。向き合って10分間だけでも話をすると全然違うということで。各家庭でそれをする方が先生1人で30人、40人をみるよりは各家庭の方が一番。家庭教育セミナーのお話を聞いて家庭の力はすごいなと思ったところです。

○照井善耕委員長 基本がそうなんでしょうけど。基本がそうなんだけど、親自身がそ

ういう気分になれない親が今いっぱいいる。

○市村律教育部長 そうなんですけど、それをみんな学校に持ってこられると先生方がい
くらいたって足りなくなると思う。いくら人をつぎ込んでも、各班に1人ぐらい先生がつ
かないとみんなの話を聞けないということになるのかなと。どこまでの管理というのが難
しいと思うのですが。

○照井善耕委員長 学校もやらなければいけないし、親の方もやらなければいけないし、
しかもやれるところとやれないところがあるから、やれないところはやれるところで補っ
ていこうと絡ませていかないと。

私も経験があるんだけど、忙しいんだから新聞ぐらいゆっくり読ませてという子供が
膝に座ったり、お父さんこっち見てってやったり。せめてそういうかわりを持てればま
だ親子もいいんだけど、そうでもない子もいるから。来てほしい親がなかなか来ないとか。
ここはまさに課題なんだよね。その親に子供の方を向けるようにするにはどうするか課題。

○役重眞喜子委員 結局今ここで話し合われていることが見えないなということなんです
よね。それは予算でもなんでも事業化されない施策化されないことだから出てこない
と言われればそれまでなんですけど。教育委員会として「豊かな心」というのはこうです
よというのはここに書いてあることでしかみられないじゃないですか。本当はみんなわか
っていることだけど、この計画の中にはなかなか出てこないなと思った感じです。

○照井善耕委員長 気持ちにゆとりが出てくれば、人の話も聞こえるようになるんだけど、
これは子育てだけの問題じゃなくて私も初めて教育委員会で勤めて話かけたときもまさに
そうなんです。変に話に飛びつくとか何か新しい仕事に来るんじゃないかと。やはりみん
な切なくなるとそういう風になってしまうんだよね。

最終的には家庭教育が大事だと言っても親自身が後ろめたさを感じているから、そこに
ちょっと言われただけでぐさっとくるし、反発心があれば「おたくは子育てがうまくいっ
ているのか」となる。だから、そっちでこうすればいいというんじゃなくて今受けている
側としてどういう方向が考えられるか。そこをとことんやっていく中で親の方もゆとりが
出てくれば心の豊かな人間性が育つかと。

いや5分でもいいと思うんですよ。5分間でも一生懸命聞いたらいいですよ。でも
例えば親は勤めから帰ってくれば、ごはんを作らなければいけないとか言い訳をして、親
にゆとりができて声をかけると「もういい」と言われるんだよね。本当はただいまと来た
時にまずはやりとりしながら、続きはごはんを作ったらと。最初にちょっとしたところだ
けでも受けてあげればいいんですけどね。でも一番考えなければいけないことだよ。

富士大学の講演を聞いた方はいますか。すごくいい講演だった。ちょっとだけいいです
か。宇宙飛行士の選定の時に質問のひとつにあったのですが、「あなたは浦島太郎型ですか。
桃太郎型ですか」。

○佐藤勝教育長 ちょっと手を挙げさせてみましょうか。「桃太郎タイプ、浦島太郎タイプどちらに魅力を感じますか」。桃太郎タイプ。浦島太郎タイプ。ではご説明をお願いします。

○照井善耕委員長 誰が考えても桃太郎だろうなと思ったんだけど。結局、宇宙のことは95パーセントわからない。そういう見通しのわからない状況の時に桃太郎タイプで具体的に目標を定めていくと周りが見えなくなる。浦島太郎は釣竿を担いでいるけど釣りをしている場面なんてない。ニートのひとつだと。あれは亀を助けて竜宮城に行くんですよね。ぼーっと歩いているときにふと目に留まった。あれが桃太郎だと鬼を退治しなければいけないから多分目に留まらなかったと思う。

○伊藤明子委員 最終的にどちらを選んだ人が宇宙飛行士として適任かという問題です。一般的な人は桃太郎と答えると思うんです。正義の味方だし、一生懸命努力するし、おじいさんおばあさんを助けて、財産を持ってきて分け与えると。でも宇宙ということを考えれば、何が起るかわからないところに行くということも大事だということなんですね。竜宮城という誰も行ったことのない所に行くという気持ちになったという。そこが大事ということでしたよね。

○照井善耕委員長 今、世の中の価値観が多様化して不透明な時に本当の問題を見つけたり気が付いたりするには、そういう浦島的なところも持っていないと。ただ、目標達成型だけでいくと本当は気が付かなければいけないことが気付けない。最後に言った言葉が「ちゃんと、うろうろしましょう」。必ず大きな壁にぶつかるから、この壁は越えられそうもないとうなだれているだけだと何もおこらない。ぼーっとしてうろうろしているとたまたま小さいヒビ割れが目に入るかもしれない。だったらそこを調べてみるとか。もしくは自分が何もできなくてもうろうろしていれば上から見ていた誰かが縄を投げってくれるかもしれないという話で、明日からこうしなくてはいけないといきり立たなくてもいいという話。でも両面必要だから、浦島・桃太郎でいきましょうと。

○佐藤勝教育長 正直言えば生涯学習で家庭教育力の向上という項をどんと出してもらえると。ここはもう学校教育ですので一番先に課題として、例えば「認め合い、高めあう、集団の育成」とかそういう言葉から入ってくるとストーンといくんですけど、①にいきなり自己肯定感とかあると難しい感じに。

○役重眞喜子委員 家庭に押し付けるという話ではなくて学校教育の中で心得たかなというところを見据えた時に。

○佐藤勝教育長 ただ、これ①に入れさせたのは私なんですけど、そういう流れの方がいいかな。

○役重眞喜子委員 流れは別に肯定感が入ってもいいと思います。

○伊藤明子委員 肯定するのは大事だと思いますよね。

○市村律教育部長 豊かな人間性と大きく括るのか、役重委員がおっしゃったみたいに何かに特化した形の部分にかかってくる、全部。優しさから何から全部というような、そういうことになったらこれがオールなのかって。

○伊藤明子委員 このくらいの枠でああいうことも言いたいこういうことも言いたいとなるからそういうことになるんですもんね。今回は1つにとはならないのだから、やはり家庭の力ということを中心に、これは幼稚園から小学校からご覧になると思いますので、小さいお子さんの親御さんが家庭の力の大事さということを強力におっしゃっている方がいいような気がします。

前の会議でも家庭の力ということを大きく捉えていて、小学校に入っても子供が自分の洋服を取り換えられないとか、歯を磨かないということがあったり、時代的に育児放棄ネグレクトとかあったり、家庭が大事だよという非常に強く、ここの中にも書いていましたけれども、子供さんが片親になって豊かではない生活をしたり、親が必死になって働かなければいけないから子供をみれないという時代の変わりようがあると書いてありましたけれども、そこらへんのところも強く言っていけばいいのかなと思ったりして。

○照井善耕委員長 取り組みに「児童・生徒が集団の一員であることの自覚に基づく」と、これを絡めると学校は集団生活だから、学校が個を受け入れる集団、自分も受け入れられる集団、学校という集団はどんな育ちをしてきた人も出がけにどんなことがあった子供も皆受け入れるよと、受け入れて一日が始まるのが学校の集団生活だよというのが大前提とこのを出せればいいんじゃないですかね。

○役重眞喜子委員 表現のあれだと思うので。当然家庭との連携ということを入れればそれでいいんじゃないでしょうか。

○佐藤勝教育長 一番難しいところなんですよ。定番だけれど一番難しいところなんです。

○照井善耕委員長 はい。18ページ特別支援。学校保健。教育環境。

○佐藤勝教育長 特別支援体制の中に不登校が入っているのですが、なかなか苦しい感じがする。不登校生徒についての対応とかなんか、そこ、ご意見いただけますか。ここがいいのか、あるいは豊かな心の方にもっていくか。

○役重眞喜子委員 いつも特別支援体制というより学校適応対策という表題にしていませんでしたっけ。学校適応対策で不登校と支援と。(4)全体が特別支援体制だとやっぱり特

別支援というとは不登校は違う。

○照井善耕委員長 特別支援と言ってもいいような気もするんですけど。特別支援教育もそうだけれども長期化する場合もあるけど。いろんな情緒的な問題が絡んで、ここは特別な配慮をして支援しないと。みんなと同じとか平等というような指導ではないと思うので。

○中村弘樹委員 「特別支援」という言葉の先入観もあると思います。特別支援学級という言葉があっても不登校もそこにいれるっていう先入観。同じ支援はしなければいけないということだと思っんです。

○役重眞喜子委員 「特別支援と学校適応対策の充実」とか。

○佐藤勝教育長 豊かな心をもっていった方がいいですかね。

○照井善耕委員長 不登校を前の方に持っていくと、授業の中に教育相談員なり生徒支援員の配置とかがってなるんですね。

○市村律教育部長 できれば「個に応じた支援体制の充実」とか。特別支援っていう中村委員がおっしゃったみたいにその言葉とつながるとそっちにひっぱられるような感じになる。

「個に応じた支援体制の充実」という形になれば、それぞれの状況に応じた形になる。個までいけるかどうかちょっと。

○照井善耕委員長 内容的にいえばそういうことだもんね。「個に応じた支援体制の充実」それがいいんじゃない。

○佐藤勝教育長 だいたい特別って使うこと自体があまりよくない。その方がいいね。大きい見方として。

○照井善耕委員長 全国的だか岩手県だか中学生の治療率が4割という。歯科保健で「年々う歯の未処置者の割合が減少しているものの小学校低学年の未処置率が高い傾向にあり」とあるけど、中学生は具体的に。部活で歯医者に行けないとか。

○岩間裕子教育企画課長 中学校は改善しています。小学校の低学年の未処置率は、いずれ抜ける歯だからいいんだと思う親が多いので永久歯前の乳歯については治療に来ない傾向が非常に高い。ただ、それを放置することで虫歯菌の繁殖にはなるので永久歯も虫歯になるんだよということにはしゃべるけれども、いずれ抜けるもんだからと親がなかなか受診してくれないのがこの未処置率が高いという傾向に表れていると思うというのが歯科医師会から伺っています。

中学生は前は部活で治療に行かないというのが非常にあったんですけど、それを保健会から色々ご指導をいただいて、今は長期の休みとかに集中的に通うようになって処置率は上がっています。

○照井善耕委員長 教育環境の充実。今まで栄養教諭による食育指導が受けられなかったというのは何校かあったのですか。

○岩間裕子教育企画課長 大迫の小学校3校です。

○市村律教育部長 規模からいって1名なのですが、中学校も入れて4校足しても食数からいって栄養教諭1人しか配置できないので。

○佐藤勝教育長 確かに栄養教諭による指導というのはなかった。栄養教諭による計画的な取組がなかったということです。

○中村弘樹委員 奨学金制度で滞納者が多いと言われていて、返還額の一部を免除するという新しい制度を作るといった場合に資金の部分とかがあってというのは。

○佐藤勝教育長 今度奨学金の制度を改正しようと思っっているのですが、まず、奨学金の利用者数が少なくなってきている現状があります。それから基金として運用できる部分が多くなってきている、つまりお金に余裕がある。それで、この奨学金制度を充実させるためにはどうしたらいいかという観点で見直しを図ってアンケートをとりました。そうしたらいくつかの答えが出てきて、まず、貸与金額を大きくしてほしいということ、2つ目は必要なのは入学時の一時金だと、定期的な奨学金の他に一時金として3月の末なりにそこのお金がある程度あればいいなど。それから3つ目が募集時期を固定しているのですが、環境の変化に対応した随時募集できる方法がいいという観点です。

まず、金額を大きくしてほしいというのについては金額を大きくすると返す方も大変になるのですが、それをやると資金にいくら余裕があるといっても枯渇してしまうのでこれはちょっと難しいと。次に、一時金10万円ということであればこれは対応できるなど。希望すればですね、希望しない人にはできない。それから、意欲が高く成績優秀でという2つの条件があったんですが、今さまざまな奨学金制度もあるし、本当に困っている人にどうなんだろうなという。成績の条件は外していいんじゃないと。そして、随時という形で定時の募集はするんだけどそれに満たない場合は随時という形で決まった枠の中ではやっていいんじゃないかということで、そういった方向に変えようかというところなんです。

あともうひとつ課題はあるのですが、まち・ひと・しごとの関係で地方創生のために花巻に帰ってきて仕事をする場合には減免措置というものについても考えていいんじゃないかなということで、候補として考えたのはお医者さんとか学校の先生とか考えたんですが、お医者さんについてはそれなりの制度が県にもあるようですし、今のところ保育士さんは

どうかなとか考えています。結論を申しますと、一時金と成績の枠を外して随時行うと
いった形に変えていったらどうかなと検討してこの線ですめています。

○伊藤明子委員 県の教育委員会から、入学祝い金ということを考えていますという問い
合わせがあったんですよ。入学時のお金がかかるということで、うちでは入学祝い金8万
円なんですけど、それは最初からあげますという形にしているんですね。返してください
じゃなくて。入学金は8万円あげますという風にして入学した月から貸与するというこ
にしているんですね。県の教育委員会からおたくのシステムを教えてくださいという連絡
があって、そういう風になっていると。最初だけは2本立てでお上げする分とお貸しする分
としていきますということをお話ししたんですよ。

ただ、うちは返還率が非常にいいもので、100パーセントなものだから、戻ってくる
お金でなんとか回していけるけど、返還率が悪いと非常に大変だということになりますよ
ね。市役所でも返還が大変だということで随分ご苦労なされた経緯があるように聞いてい
ましたので。そこのところをどうしていますかと聞かれて、うちでは両親と本人の面接を
しているんですよ。そしてお金のこともきちっとお話しをすると。だから返還率もいいの
かなと思ったりもするんですよ。だから奨学生の結婚式にも呼ばれたりしているので、そ
ういう意味では貸しますよ借りますよじゃなくて、もうちょっと話をするとか深い付き合
いがあるんじゃないかな。親を巻き込むとまたちょっと違うかなっていう風に思ったりし
ていました。すみません。何だかいらぬことを話したかもしれません。

○照井善耕委員長 家計の問題はないんだっけ。

○岩間裕子教育企画課長 所得制限はありますけれども緩くしました。前よりは随分緩く
なりました。

○照井善耕委員長 前は大口の寄付者から「借りたいというところに貸してくれ」と。「親
がどうこうではなく借りるのは本人なんだから本人に貸してくれ」という話があったけれ
ど。希望者が少なくなった背景にどうも保証人を頼むのが身内同士でも色々面倒があっ
てそれで少なくなっているという話も聞いた。本当に必要な人には貸すとなればいいん
ですけどね。滞納っていうのは多いですか。

○佐藤勝教育長 ありますね。返したくても返せないという人もいますし、しっかり反応
してくれない人もいます。

○伊藤明子委員 まとめ払いなんですか。月々払いですか。

○佐藤勝教育長 月々払いです。

○照井善耕委員長 私もうひとつ聞きたいのは22ページにこれ(図)入れたんだけど、

前のところの関係でいくと、どういうつながりになるのか。もうちょっと構造図みたいに。

○岩間裕子教育企画課長 「子育て環境の充実」と「学校教育の充実」の保育園、学校、親、地域、行政。ここに書いてあるそれぞれのかかわりを図式的に書かれていることをまとめてみたということで。1と2の部分なので、ここの間に入れてみたところです。

○照井善耕委員長 図そのものはわかりやすくいいんだけど、前からのつながりでいうとちょっと。何か表題をつけるとか。

○岩間裕子教育企画課長 関連を何かちょっと書ければ。

○照井善耕委員長 これは計画の中には資料として入るのですよね。どこに入れるかですよ。では、そのほか。

生涯学習。25ページに「ホットスプリングス」じゃなかったっけ。（「ホットスプリング」となっていた）

今は先人のことと絡んで副読本の活用は全然していないんだっけ。「揆奮」は学校にはやっていないんだっけ。3町でも先人をまとめた資料はないんだっけっか。

○佐藤勝教育長 「揆奮」みたいなのは3町では。

○役重眞喜子委員 ありますよ。それぞれで。

○照井善耕委員長 それぞれあるのは今使っているの。

○役重眞喜子委員 子供向けに編纂したものではないです。

○岩間裕子教育企画課長 数年前に先人に関する資料の再編纂に取り組むという、ちょっとやったはずなんですけれども正式な冊子になって学校に配布になったかというところが。編纂には取り組んで、その時にあわせて企画展示会とかやったはずなのですが、その後がストップしている状態です。

○佐藤勝教育長 編纂というのは誰がですか。

○岩間裕子教育企画課長 生涯学習の方です。

○佐藤勝教育長 生涯学習でやって。それで先人記念館というか、施設の展示に持っていくという話。

○役重眞喜子委員 共同企画展でやった時に先人をテーマに。

○岩間裕子教育企画課長　それが最終的な完成版だと思われま

○佐藤勝教育長　本来そういった機能をもっている施設がやった方がいいのか。教育研究所でやるのは難しいですね。

○照井善耕委員長　本にしてやるとお金がかかるからデータベースみたいに打ち込んでキーワードを入れれば何か出てくるようなそういうことができないかなと。

○佐藤勝教育長　自由にダウンロード出来るようにすれば一番いいんですけどね。

○千葉達哉文化財課長　まなびガイドブックに載っていたんじゃないかな。3、4年前に市の学習施設とか情報を集めるのでまなびガイドブックというのを作ったんですよ。各総合支所と振興センターに置いているんですがその中に確か先人もあったような。ここの下の1階のロビーにもありますけれども。確か先人もあったような、それで調べたような気がします。

○照井善耕委員長　勿体ないですね。結構いるんだっけもんね、いろんなプリマドンナとか。あれは東和だっけっか。

○伊藤明子委員　小山田ですね。伊藤敦子さん。

○照井善耕委員長　今度誰かが佐藤（山室）機恵子をやるっけもんね。完璧な解説でなくてもいいから、少なくともそういう名前を打ち込めば概略が出てきて、それが今の花巻を作っているんだよと、そういうのができればいいなど。

○役重眞喜子委員　先人記念館ができていればそこの仕事に。

○佐藤勝教育長　そこは生涯学習と両方話をきいてどういう形になるか。こちらとしては大事にしたいということだけはお話して。

○千葉達哉文化財課長　データベースにはなっていますので、まなびガイドブックに入っていれば検索もホームページからできます。

○照井善耕委員長　啓発活動を。ほかにないでしょうか。

それでは、これをまとめていただいて調整して議員さん方に説明するという。委員さん方からも何か気づいたことがありましたら。それではほかになければ今日の会議を終了します。ありがとうございました。